

Title	グルクロン酸転移イソ酸素欠損症 : GunnラットおよびWistar系ラットの比較
Sub Title	
Author	永井, 総子(Nagai, Fusako) 高橋, 美恵(Takahashi, Mie) 本間, 浩(Honma, Hiroshi) 松井, 道夫(Matsui, Michio) 棚瀬, 久雄(Tanase, Hisao)
Publisher	共立薬科大学
Publication year	1987
Jtitle	共立薬科大学研究年報 (The annual report of the Kyoritsu College of Pharmacy). No.32 (1987.) ,p.121- 121
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学会講演要旨
Genre	Technical Report
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00062898-00000032-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

液中より僅か大きいだけであった。結局、中性アミノ酸は含水溶媒中でも双極イオンとして存在するので、非水溶媒ではなく含水アセトンなどで滴定するほうが好結果が得られる。

グルクロン酸転移イソ酵素欠損症：Gunn ラットおよび Wistar 系ラットの比較

永井総子, 高橋美恵, 本間 浩, 松井道夫, 棚瀬久雄*

〔日本薬学会 第107年会 (1987年4月, 京都) で発表〕

〔目的〕 演者らは、市販 Wistar 系ラットの中に、Androsterone(AN) に対するグルクロン酸転移酵素(GT) が欠損しているミュータント(W)を発見し、その育成を行なっている。Bilirubin (BL) GT が欠損している Gunn(G) ラットは、1934年に発見された Wistar 系ラットのミュータントであるが、BL GT 欠損症による黄疸を維持するために、種々の系統のラットと交配されており、黄疸以外の遺伝形質はコロニーにより異なる可能性がある。今回、三共・安全研で Wistar-Imamichi と交配後、20年以上にわたり育成している G ラットの肝 GT 活性、硫酸転移酵素 (ST) 活性および Cytochrome P-450(P-450) 含有量を測定して、W ラットの酵素活性と比較した。

〔方法〕 雌雄 G ラットおよび W ラットの肝マイクロゾーム (M 分画) は基質として AN, BL, Testosterone (TS), 4-Nitrophenol (NP) および 2-Aminophenol (AP), GT 活性剤として Digitonin (DG), Triton X-100 (TR) または N-Nitrosodiethylamine (DE) を用いて測定した。ST 活性 (C 分画) は、NP, AN, Cortisol (CT) を基質として測定した。P-450 含有量は常法に従い測定した。

〔結果・考察〕 BL GT 活性は、G ラットには欠損しており、W ラットでは高い活性を示した。AN GT 活性は W ラットでは非常に低いが、G ラットは高い活性を示した。AP GT 活性と NP GT 活性は、G ラットのほうが W ラットに比べて低いが、DE 等の添加により W ラットとほぼ同じ活性に上昇した。TS GT 活性、ST 活性および P-450 含有量には大きな相違はみらなかった。

* 三共・安全性研究所